

全体討論会 協議記録

協議テーマ：

今後のブロックリーダー研究大会について

1. リーダーAグループ
(リーダー会会長もしくは役員)
2. リーダーBグループ
(次期会長候補者)
3. 育成担当指導者グループ

リーダーAグループの全体討論会ではグループに分かれて協議した。

グループA

問題：プログラムの時間配分（交流と研修）

- ・交流会メインでは意見交換の時間が少なく物足りなかった。
- ・ディスカッションばかりだと、県の特徴が出せない。

改善策

- ・各県の要望を聞いて、それをふまえたプログラムを作る。
- ・その時に挙げた問題を課題として来年につなげる。

グループB

問題：引き継ぎ問題

- ⇒研修会中に記録を作って各県に配布する。自分の県にしっかり報告する。
- ：新人の発言を促すためには
 - ⇒レベル別に討論。班付きのリーダーをつける。
- ：他県のニーズに応えるには
 - ⇒参加者にアンケートを実施。各県の意識の共有のため、話し合いの場を設ける。

グループC

問題：計画（プログラム）の立て方

⇒計画はすべてリーダー（会）主体で立てるべき

<メリット>

- ・リーダーにとって適切な活動ができる
- ・自分たちでテーマを設定することで積極的に話し合える
- ・形を残せる

<デメリット>

- ・県の財政事情がわからない
- ・リーダーがしっかりしていないとスムーズに進まない

改善策

- ・ファイル等の事務的な引き継ぎだけでなく、メンバーの引き継ぎや、他県とのつながりを作る。

グループD

問題：参加者が減少し、決まった人しか来ない

- ：リーダー会がない

：特定の地域からしか参加しない

：リーダーを増やしたいが、リーダー会ができたばかりで改善策がわからない。

改善策

- ・大会で新聞
- ・定例会で報告書
- ・定例会の場所を毎回変える
- ・市町村と指導者の協力

グループE

問題：参加するリーダーの意識が低い

改善策

- ・ブロック研究会の内容をしっかりと伝える
- ・先輩方による指導
- ・今いるリーダーの意識の向上と土台作り
- ・各県事前に連絡を取り合い、クオリティを高める

グループF

問題：参加リーダーの意識の違い

- ：参加者の態度・マナーが悪い
- ：人の話を聞こうとしない
- ：話し合いのレベルの低下

原因

- ・リーダーとは何かを理解していない
- ・人数不足
- ・県の活動に参加していない
- ・参加させられているという意識

改善策

- ・やりがいを見つけさせる
- ・役割を与える
- ・広報による理解
- ・お互いの話し合いを見合う、聞き合う

グループG

問題：参加者リーダーの意識

：研究会に何もわからず参加して、理解できていない人もいる。

改善策

- ・そこで何かを得て、意識を持って帰る
☆頑張っている人は維持していこう！
- ・大会参加者は、その後活動をして経験を積むこと。また、引き継ぎをしっかりとる

リーダーB グループの全体討論会では 2 つのテーマについてグループに分かれて協議した。

①ブロック大会に参加する際の参加者の意識の差

②引き継ぎの仕方（次期開催県へまたは、一巡してきた時の自分の県へ）について

①ブロック大会に参加する際の参加者の意識の差について

問題：経験や年齢の違いによって参加する際の目標の持ち方が違う。（下の立場の人はきちんと目的を持っていない人もいる。

：下の立場の人は内容についていけず分からない。

改善策

- ・ 開催予定の報告書を送る。議事録・ちらしを配る。
- ・ 上の立場の人は、下の立場の人にリーダー活動の楽しさを伝える
- ・ 無理に全員を同じにしようとせず、経験の差や年齢の差に応じて話し合いなどは分ける

②引き継ぎの仕方について

問題：参加人数が少ない、出られる人が少ない

：役職しか参加できない

：反省会、報告会をしない

：経験者に責任感が足りない

：各都道府県の上の立場の人がもっと話し合いをするべき

改善策

- ・ 引き継ぎファイルを作成し、開催県に回す
- ・ 議事録を作成する
- ・ 報告会を開く（次期会長候補なども参加し、次のブロック研究大会にも参加させて引き継ぎの流れができる）
- ・ トロフィーなど形になる物を引き継ぐ
- ・ 泊まりで研修、準備をする
- ・ 上の立場の人が参加し、見て、伝えて、引っぱる
- ・ 引き継ぎ式などを行い、メリハリを作る
- ・ 経験を多く積ませる（県内でのプチディスカッションや様々な大会への参加など、経験を積んでから研究大会に参加する）
- ・ 参加した際に書いたノート、資料を次の年に参加する人に見せて、内容を詳しく伝える

育成担当指導者グループの全体討論会では 3 つのテーマについてグループに分かれて協議した。

- ①開催県の引きつぎの問題
- ②研究大会のテーマ設定、内容の問題
- ③研究大会の参加リーダーの問題

①開催県の引継ぎの問題について

各ブロックの現状

- ・関東…ファイルを作って伝達
- ・東海…各県 15 名の参加によりフィードバック
指導協の研修会へのリーダー参加で縦の関係もつないでいる
旗（寄せ書き）による意識面での引きつぎ
- ・近畿…報告書（冊子）を作成して参加県へ配布

全体まとめ

- ・ブロック研究大会の主旨の再確認をしていく
- ・全国リーダー連絡会での報告資料の整備
- ・全国リーダー連絡会でのブロックでの話し合いが最終調整
- ・各県の個性を出すためマニュアルは作らない
- ・ホームページへの資料の掲載

②研究大会のテーマ設定、内容の問題

グループ A

各ブロックの現状

- ・北信越…ディスカッションしても出口が見えないまま終わっていた。
人数、組織が出来ていればリーダーで企画からできるのではないか。
- ・九州 …課題がはっきりしない。目標を決めてから設定。
- ・関東 …テーマ設定はリーダーが決めている。アンケートでまとめている。今後はリーダーだけでなく、指導者の意見を入れてテーマ設定をしてはどうか。
昨年の関東ブロックでは最終日にテーマを投げかけた。結果、それを目標に動いた。
- ・中国 …同時開催を行っているが、各事業でテーマをしっかりと設定していないと、研究大会＝レクとなっている。レクができないとリーダーではないという傾向がある。

○テーマ設定の違い

- ・リーダーの意見を聞いて開催県が決定
- ・連絡会でリーダーが話し合い決定
- ・アンケート調査で共通する問題点をまとめて決定（開催県）

→ただし、テーマを決定しても難易度の差の問題がでてくる。

- ・研究大会の終了時にテーマを設定。
- ・1、2ヶ月前にテーマを発表（設定）すると短い時間の準備できちんとした議論ができないのでは。テーマを設定し1年間の活動があれば、実績もあるため、テーマも生きてくるのではないか。
- ・複数年のテーマ設定
- ・テーマ目標を高く設定しまい、各県に戻ったときに達成できないことがある。
- ・ブロックの大きな目標を設定し、その下に小さい目標を設定していく。その目標を達成したら次の目標というように段階的にいき、最終的には大きな目標を達成する仕組みが良いのでは。
- ・中国ブロックでは交流・レクがメインである。

まとめ

- ・これまでは出口の見えないテーマでディスカッションをしているため、出口の見える設定をする。
- ・研究大会開催まで短い間でテーマ設定をすると中身の薄い協議になる。テーマ設定後、一年間等長い期間その目標に対し活動した後、そのテーマについて協議すると中身もテーマも生きる。
- ・大きなテーマを設定し、その下に小さなテーマを設定。その小さなテーマを達成したら次の目標というように段階的に大きな目標を達成する仕組みを作る。

グループB

- ・各県のリーダー会の温度差&レベル差により、足並みを合わせる必要がある。
- ・出席対象者（会長クラス・新人等）によりテーマを変える必要がある。
- ・日程、ハード面により、テーマ・プログラムを変える必要がある。
- ・昨年からの引き続きのテーマ（内容）を考えた上で決定。
- ・結論の出ないテーマよりも、その場で結果の出るテーマが良いのでは。
- ・予算によりプログラムの内容に限りがある。それによってテーマも変えざるを得ない。
- ・テーマにより、研究大会ではなく交流会になってしまう。

まとめ

- ・テーマ設定はリーダー中心に決定するが、指導者も上記を理解した上で助言することがよい

グループC

○研究大会のプログラム内容の決め方

- ・全国リーダー連絡会のブロック別の集まりで、ある程度決めて、細かい部分については開催県側で決める。
- ・ブロック内でアンケート等により、要望などをプログラムに取り入れる。

○ディスカッションのテーマ設定について

- ・今までは単年度ごとのテーマ内容になっている。
→ある程度、長期的な目標を設定して何カ年計画で進める。
- ・次年度開催までの課題を設ける。→毎年つながりのある大会にしていく。
次年度大会にて課題に対する成果・反省を発表する。
発表内容から新たなテーマへつなげていく。
→毎年つながりがあるとリーダー達もディスカッションしやすいのでは。テーマが決まったプロセスを理解した上でディスカッションに臨める。
- ・開催県になったリーダー会は大きく成長する。 } → 学んできたものを還元できているのか
- ・研究大会で学んで成長していく。 }
→ジュニア・リーダースクールや子どもたちにつなげていく

③研究大会参加リーダーの問題

参加リーダーには意識の差がある。

→なぜ？

- ①参加者には年齢の差があるため、ディスカッション等で話に参加できる者とそうでない者がいる。
- ②リーダーとしての経験年数に差があるため、リーダーとしての資質の差が感じられる。
- ③単位団、指導者、保護者等の理解や認知度において差があるため、同じ経験年数の者同士でも差が出てくるのでは？

改善・対応について（指導者として）

①単位団での活動等の充実を計る（フィードバック）。

- ・研究大会等で得たことを持ち帰り、単位団での理解を得る。

↓↓

保護者・指導者・団員へのアピールも含め、関係者に対しての意識の共有を計る。また、指導方法等についても、統一した考えを共有するのが大切である。

②各種大会等に積極的に参加し、場数（経験）を積むべきだ。

- ・市、県等での大会・研修会等を開催し、リーダーの活躍の場を提供する。

↓↓

後継指導者の育成にも発展すると思われる。また、積極的に各種大会等に参加し、他のリーダーと自分を比較してもらい、自分の足りない部分などを感じてもらい、刺激を受けてもらうのが重要。とにかく、自分自身で何かを感じ、行動に移してもらうことが狙いではないか。